

## JPA 主催大会【個人戦・団体戦共通】競技諸注意

### 【集合】

集合時間までにプレーの出来る服装で大会本部に出席を届け出てください。ダブルスはペア 2 人が揃った状態、団体戦は当日の第 1 対抗に出場するメンバーが全員揃った状態で大会本部に出席を届け出てください。集合時間までに出席の届け出のないプレーヤー、ペア、チームは欠場となります。ダブルス、団体戦は人数が揃っていない状態では出席とはみなされません。※集合時間の 10 分前には出席を届け出る様に心がけてください。

### 【プラクティスコート】

プラクティスコートは、大会本部が指定したコートで、指定した時間帯のみ使用可能です。

※大会期間中を通じて、空きコートは大会本部が開放した場合以外は使用禁止といたします。対戦中のプレーヤーのプレー環境にご配慮ください。

### 【対戦結果報告】

対戦終了後はただちに勝者(ペア、チームの場合は代表者)が大会本部へ試合結果を報告してください。報告方法については、各大会毎に大会本部オフィシャルボードに掲示します。

### 【違反事項】

悪質な違反の場合はレフェリーが失格を決定することがあります。

1) 無断欠場

2) 試合中の不当な遅延行為

3) 試合中のアドバイスおよびコーチング

プレーヤー、チームは試合中にコート外からコーチングを受けることはできません。「頑張れ」「先リード」といった言葉はコーチングにはあたりませんが、「足を動かして」「センターを狙おう」などはアドバイスにあたり、コーチングとみなされます。団体戦の場合は、コート内のコーチから、エンドチェンジ、タイムアウト時にコーチングを受けられます。ただしコート内のコーチはコート外の誰からもコーチングを受けてはなりません。

4) 試合中のボール、パドルおよび用具の乱用

5) 試合中の言葉による侮辱、身体に対する危害

6) スポーツマンシップに反する行為

7) 正当な理由のない試合の途中棄権

8) 正当な理由のない大会公式行事の無断欠席（開会式、表彰式など）

### 【対戦中の注意事項】

・他コートからボールが入って来た場合は、気付いたプレーヤーが直ぐに手を挙げてプレーを止めて、ポイントをやり直してください。

・セルフジャッジで、ボールがラインにタッチしたか否か、ボールとラインの間に空間が見えなかった時、ボールを見失った時などイン、アウトの判定が出来なかった時はグッドで、相手に有利にインと判定してください。またダブルスではペアの両選手の判定(ジェスチャー)が食い違った場合はそのペアの失点となります。ボールに近いプレーヤーが判定する様に心がけてください。※コート内のプレーヤー以外のチームメンバー、観客が声を出してイン、アウトと言ったり、判定に関与することは厳禁です。

・ノンボレーゾーンラインを踏んだり、ノンボレーゾーンに入ってボレーした際は、自己申告もしくはペアの方がすぐに相手プレーヤーに申告してください。

・サーバーは相手プレーヤーがリターンの構えに入っていることを確認し、必ず相手プレーヤーに聞こえるようにスコアをコールしてから、サービスを行ってください。

・聴覚障害のプレーヤーと対戦する際は、インとアウトが明確にわかる様に、インの場合はコートを指さし、アウトの場合は手を上げてください。聴覚障害のプレーヤーが出場する試合には、得点板を操作するボランティアを配置します。※得点板操作のボランティアはアンパイアではなく判定はしません。

・タイムアウト(各ペア任意で 1 分以内 2 回まで)を取る際はパドルを各自コートへ置いて移動してください。※大会によっては取れない場合もあります。

・ダブルスでスタッキングを行うペアは、間違えのないように確実に行ってください。セルフジャッジにおいては判断が難しいところですが、本来であればポジショニングの間違いは失点で相手ペアのポイントになります。念の為、スターティングサーバーはマーカーを見える所に付けて、ポジショニングの間違いのないようにしてください。

・大会期間中のルールの法的解釈問題に関する最終決定者は大会レフェリーです。スタッキングをはじめ起こった問題は、大会レフェリーに最終判断を仰ぎます。問題が起きたら、すぐに自分自身でアンパイア、大会レフェリーに申し出てください。チームメンバー、コーチ、観客に頼むことは出来ません。

・セルフジャッジの試合では、ロービングアンパイアが配置されます。ロービングアンパイアは、対戦中のプレーヤーがすぐに呼ぶことができる様に担当コートを巡回しています。

・アンパイア、大会レフェリー、大会ディレクターは全てのプレーヤーの話を公平に聞きます。また JPA 主催大会は全てのプレーヤーを公平に扱います。

### 【大会公式トレーナー】

・大会公式トレーナーが常駐する場合、オンコート優先です。

・緊急の場合を除き、トレーナーによる診察やMTO(メディカルタイムアウト)は次のエンド交代時となります。MTOはレフェリーや主審が許可すれば、次のエンド交代時に取ることが出来、緊急時はすぐに取りることが出来ます。トレーナーが付かない大会はセルフトリートメント(プレーヤー自身で治療)となります。

・MTOの対象となるのは「試合中に怪我をした」場合、「もともと持っていた怪我が悪化した」場合、また「頭痛」「吐き気」等の内科的なトラブルとなります。「筋

肉の痙攣(足を攣った場合等)」の場合、プレイヤーはエンド交代時にエンド交代規定の60秒以内に限りメディカルトリートメント(MT)を受けることが出来ますが、MTOをとることは出来ません。また「疲労」ではMTOは取れません。

・トレーナーの要請は早めに行ってください。緊急の場合を除きトレーナー到着まではプレーを続行してください。

・2024.3.1現在、JPA主催大会においてMTOは、1部位の症状につき1回3分間以内の治療を認め、治療終了後30秒経ってもプレーを再開できない場合はコードバイオレーション(ゲームの遅延)となります。

※オンコート以外でのトリートメントおよびテーピング利用の場合、その費用は各自負担とします。

※オンコート以外でのトレーナー要請は人数を制限することがあります。

以上  
2024.03.01